

日本 ESD 学会

第 2 回大会・総会プログラム

Japanese Society of ESD.

2nd National Conference and General Assembly, Miyagi University of Education

星祭の候、仙台より会員の皆様方に、ご挨拶申し上げます。

この度、日本 ESD 学会第 2 回大会・総会を下記の日程で開催することになりました。

ESD 学会の研究大会として、国際的なユネスコの動向から SDGs、学校と地域の協働、学校教育におけるホールスクールアプローチ、環境教育、社会科教育など多様な分野にかかわる内容が議論されます。ワークショップやフィールドトリップも多数企画しております。どうぞ皆様お誘い合わせの上、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

日本 ESD 学会第 2 回大会実行委員長 市瀬 智紀

副委員長 吉田 剛

1. 期 日：2019 年 8 月 18 日（日）・19 日（月）・20 日（火）
2. 会 場：宮城教育大学（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地）
3. 共 催：宮城教育大学、東北地方 ESD 活動支援センター
4. 協 力：ESD 活動支援センター
5. 後 援：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
 国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
 ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム
 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)
 宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台観光国際協会
 公益社団法人仙台ユネスコ協会

| | | | | | | | | |
|------|----------------|-------|-----------------------|-------------------|-----------|-----------|-------|-------|
| 前 日 | 8月18日(日)宮城教育大学 | | | | | | | |
| | | | | 14:00 | | 16:30 | 18:00 | |
| | | | | 若手の会 | | ESD学会評議員会 | | |
| 第1日目 | 8月19日(月)宮城教育大学 | | | | | | | |
| | 9:30 | 10:00 | 12:00 | 13:30 | 14:30 | 16:30 | 17:00 | 18:30 |
| | 受付 | 口頭発表 | 団体ブース 発表12:30~ | 総会 | シンポジウムA・B | 移動等 | 情報交換会 | |
| 第2日目 | 8月20日(火)宮城教育大学 | | | | | | | |
| | 9:00 | 9:30 | 11:30 | 13:00 | | | 17:00 | |
| | 受付 | 口頭発表 | ポスター発表 12:00~13:00 | ワークショップ・フィールドトリップ | | | | |

連絡先：お問い合わせ先：日本 ESD 学会第 2 回大会実行委員会

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

E-mail : jsesd2019@ml2.miyakyo-u.ac.jp

プレイベント

「若手の会」主催ワークショップ

8月18日（日） 14:00～16:00（萩朋会館・集会室）

ESD 研究は学際的であるため、推進にあたっては“研究者と実践者”“他分野の研究者・実践者同士”など、立場と分野を越えた連携が必要不可欠です。一方国内ではESDを専門とする研究室は少なく、ESD研究を志すユース会員が各研究室等のフィールドで孤立している可能性があります。近年ESD研究が進展し、実践者が拡充されつつあるとはいえ、依然ESDが浸透しているとは言えない状況であり、さらにESD研究を深化・発展させていくためには、後進の育成は本学会にとって不可欠です。

「若手の会」は、若手実践者、若手研究者の相互交流と連携をすすめることで、ESD研究の重要性や魅力を見出し発信していくこと、そして事務局をはじめとする学会本部との連携によって若手の研究と実践を支援するための基盤整備を行うことを目的として設置します。

ワークショップは、本学会に所属する若手のESD研究者や実践者らが先進事例を学び、今後の相互交流や連携を進めるきっかけにすることを目的として、大会前日18日（日）に「若手の会」設立記念プレイベントとして、ワークショップを開催いたします。日本ESD学会の若手会員の積極的な参加を期待しています。

14:00～14:10 イントロダクション

14:10～14:30 交流タイム

14:30～15:30 宮城県内のユースのESD実践事例を学ぶ

事例1 「FEEL Sendai(杜の都の市民環境教育・学習推進会議)」

佐藤 竜晟(東北大学4年) 森 康浩(宮城学院女子大学准教授)

RCE 仙台広域圏によるESD活動の一環として、『環境フォーラムせんだい』『せんだい環境ユースカレッジ』などのプログラムを、ユース世代が企画・運営に参画しながら実施している。

事例2 「海辺のたからもの」

畠山 紳悟(「海辺のたからもの」代表、東北大学3年)

宮城県内を拠点に活動している環境系学生団体。主に海洋ごみなどの環境問題をテーマに、海辺に落ちているごみからアクセサリをつくるワークショップを企画・実施している。

15:30～16:00

日本ESD学会「若手の会」のこれからを考える

※終了後、別会場にて懇親会を予定しています。(参加任意・会費制)

8月19日（月曜日）

口頭発表 第1分科会～第5分科会（10:00～12:00）

口頭発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

◆第1分科会（231 教室）

司会：長友 恒人・木曾 功

（1）ESD政策の形成過程についての批判的考察

—〈ESDの将来に関するポジション・ペーパー〉に焦点を当てて—

永田 佳之*（聖心女子大学）・神田 和可子（聖心女子大学・院生）

（2）学校教育におけるESDの評価に関する一考察

中澤 静男（奈良教育大学）

（3）ESDと文化

岩本 渉（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

（4）多様な主体の参画と協働によるESDの推進方策

—地域発信型SDGsの構築に向けた気仙沼ESD円卓会議からの考察—

及川 幸彦（東京大学）

◆第2分科会（232 教室⇒236 に移動）

司会：大西 浩明・西口 美佐子

（1）総合学習におけるリフレクション実践の可能性

—キー・コンピテンシーの育成に焦点を当てて—

細谷 邦弘（横浜市立幸ヶ谷小学校）

（2）メタ認知能力を育むESDカリキュラム開発

—目標・内容・方法・評価の一提案—

石川 敬祐（愛知教育大学教職大学院・院生）

（3）ホールスクールアプローチ・デザインシートを活用したESDカリキュラム・マネジメント

—つながりを求めていく気仙沼市立唐桑小学校の学校経営—

吉田 剛*（宮城教育大学）・名取 佑（宮城教育大学・学部生）

（4）持続可能な社会を拓く児童を育む学校経営

—ESD・SDGsを念頭に置いたホールスクールアプローチの一試み—

浅野 亮*（気仙沼市立鹿折小学校）・千田 康太（気仙沼市立鹿折小学校）

◆第3分科会（221 教室）

司会：福井 昌平・小金澤 孝昭

（1）遠山郷における学校と地域が協働したESDの推進

ー立教大学ESD研究所地域創生プロジェクトの試みー

小玉 敏也*（麻布大学）・阿部 治（立教大学）

（2）京都外国語大学コミュニティエンゲージメントプログラムにおける課題

影浦 亮平（京都外国語大学）・枝元 益祐（京都外国語大学）・堀口 朋亨（国士舘大学）

（3）青森県環境パートナーシップセンター（ESD活動推進拠点）活動内容について

貝森 毅彦（青森県地球温暖化防止活動推進員）

（4）東北地方ESD活動支援センター活動内容について

小泉 照（東北地方ESD活動支援センター）

◆第4分科会（223 教室⇒229 に移動）

司会：小澤 紀美子・棚橋 乾

（1）SDGs達成の素地の育成を目指した生活科カリキュラム・マネジメント

ーカブトムシの飼育と栽培活動を通してー

水野 正人（愛知教育大学教職大学院・院生）

（2）小学校におけるESD・環境教育教材の開発

ーミミズの活用を中心としてー

佐々木 哲弥*（東京都杉並区立西田小学校）・高橋 尚也（日本科学未来館）

新井 雅晶（東京都杉並区立西田小学校）

（3）世界農業遺産「大崎耕土」に学ぶ生物文化多様性

蛭名 郁矢（古川学園高等学校普通科進学コース）

（4）ESD flagship species としてのヤギ *Capra aegagrus* と教育への活用

齊藤 千映美（宮城教育大学）

◆第5分科会（226 教室）

司会：手島 利夫・河野 晋也

（1）ESD の視点に立った小学校英語の授業プランの提案と実践の紹介

杉本 孝美（東大阪大学）

（2）だれもが安心して生活できる教育現場とは

—背景から読み解き、教員ができることを考える実践的研究—

山本 香織（大阪市立北津守小学校）

（3）みやぎESD 研究会が貢献する教員キャリア形成の一考察

—ボトムアップ型アプローチから深化するカリキュラムマネジメント—

遠藤 宏紀*（宮城教育大学教職大学院）

三浦 秋司・三井 雅視・上杉 泰貴・佐竹 達郎（宮城教育大学附属小学校）

（4）ESD 用地域副読本を活用した教師教育実践

伊藤 裕康（香川大学教育学部）

8月19日（月曜日）

団体ブース発表 第1分科会～第5分科会（12:30～13:30）

団体ブース発表は2日間にわたって掲示され、19日の12時30分～13時30分がコアタイムとして設定されています。

（1）公益社団法人日本環境教育フォーラム

—環境教育・ESDの取組み紹介について—

小堀 武信*（公益社団法人日本環境教育フォーラム 事業部 所属）

（2）成蹊学園におけるESD活動

—本物にふれる環境教育の実践例—

池上敦子*・全所員（成蹊学園サステナビリティ教育研究センター）

特別イベント

ヤギのふれあい展示

8月19日(月) 12:00~14:00 (2号館前)

8月20日(火) 12:00~14:00 (2号館前)

宮城教育大学では、動物とのふれあいを含む体験型の環境学習を推進しています。今回、日本ESD学会第2回大会の開催にあわせて、ふれあい活動を行っています。お昼休みから午後にかけて2号館前でヤギとのふれあい活動を体験ください。(雨天時中止)

総会：220教室 (13:30~14:30)

- I 開会
- II 開会あいさつ
- III 議長選出
- IV 議事
 - 1. 2018年度事業報告
 - 2. 2018年度事会計決算報告
 - 3. 2018年度事会計監査報告
 - 4. 2019年度の事業計画の報告
 - 5. 2019年度予算(案)
 - 6. 会則の改正について
 - 7. その他
- V 閉会あいさつ

公開シンポジウムA

8月19日(月) 14:30~16:30 (220 教室)

ESD を問いなおす—学習指導要領と教科教育の観点から

司会：見上 一幸 (日本ESD学会・尚絅学院大学)

平下 文康 (文部科学省戦略官)、及川 幸彦 (東京大学)、

遠藤 宏紀 (宮城教育大学教職大学院/宮城教育大学附属小学校)

村上 千里 (立教大学大学院/ (公社) NACS理事・環境委員長)

講演：平下 文康 (文部科学省戦略官) 「SDGsとESD—その歴史や最近のトピックスを紹介—」

シンポジウム：

2005年に“国連ESDの10年”が始まり、現在では優れた実践事例も蓄積されてきている一方で、全般的にはESDの質的な一層の向上が望まれている。新学習指導要領においては、前文並びに総則でもESDの教育目標である「持続可能な社会の創り手」を育てることが明記され、学習指導要領の基盤としてESDの重要性が示された。

とはいえESDを目指しさえすれば、教育の効果が期待され、児童生徒の考えや行動に変容をもたらすものではなく、そこにはESDの質という課題がある。本日は、ESDの質をどう高めるかについて、ご議論いただきたい。

流れとしては、学校教育を実践する教師の立場から、遠藤宏紀氏にESD実践から教科横断的に取り組んだ成果やアクティブラーニングを実践していく上での外部機関との連携の困難さ、学力向上を教師・子供も自覚していくための課題、ESDを柱に据えたカリキュラム・マネジメントを実施していく際の悩みなどを提示していただく。

そのあと及川幸彦氏から遠藤氏の提起した課題を踏まえ、新学習指導要領の趣旨とカリキュラム・マネジメントの視点から、ESDは、各教科や総合の時間を関連させて教科横断的に取り組むとともに、その枠を超えて学校全体の教育課程及び教育活動において、包括的に児童生徒の資質能力を伸ばすものであるという話をしていただき、その実現に向けて、学校外のステークホルダーとともにESDを作っていくことの重要性についても話をお願いする。

村上千里氏からは、NGOとしてESD推進に携わってきた立場から、地域住民やNPO、社会教育施設や企業などが学校におけるESDにかかわる意義や課題、連携の際に大切なポイントなどについて述べるとともに、学校と地域・社会のステークホルダーをつなぐコーディネーターの活動についても紹介学校を取り巻く社会の中でのESDの現状について述べていただき、学校教育とどう連携できるかをどう支えられるか言及していただく。

基調講演をお願いする平下文康氏には、国全体を見渡した青少年活動からESDに期待することについてご意見をいただく。

公開シンポジウムB

8月19日（月） 14:30～16:30（210教室）

東北地方4地域におけるESD・SDGs推進の実践
—震災復興・世界遺産・世界農業遺産・エコパーク地域から—

司会：小金澤 孝昭（宮城教育大学）

小山 淳（宮城県気仙沼市教育長）・岩淵 実（岩手県平泉町教育長）、
武元 将忠（宮城県大崎市世界農業遺産推進監）・斎藤 修一（福島県只見町前教育長）

2005年以降、東北地方でも持続可能な地域づくりが、学校と地域との連携によって進む実践事例が生まれてきた。その中で、地域の抱える課題や地域の特徴ある資源を活用した地域づくりとともに世界遺産、世界農業遺産、エコパーク、ジオパークなどの国連やユネスコの地域認定を活用した地域づくりも生まれてきた。本シンポジウムでは、こうした地域づくりや学校づくりのESD・SDGsの取り組み実践を踏まえて、持続可能な学校教育の進め方、学校と地域社会との連携、さらに発展目標である持続可能な地域社会づくりの進め方について議論を行いたい。報告討論者は、震災復興地域であり、ユネスコスクールを軸にESDを推進してきた気仙沼市の小山淳教育長、ユネスコ世界文化遺産を活用した全世代型『平泉学』を推進する岩淵実平泉町教育長、FAO世界農業遺産を生かした持続可能な地域農業と担い手の育成を進める大崎地域・武元将忠世界農業遺産推進監、過疎・高齢化の現実をユネスコエコパーク活かした『只見学』の地域づくりを進める斎藤修一前教育長の4名から報告と議論の展開を行っていただく。

情報交換会

8月19日（月） 17:00～18:30（萩朋友会館大集会室）

Think Globally Act Locally

会員の親睦と交流を目的に情報交換会を開催する。アトラクションとして、宮城教育大学の学生団体である「民族芸能研究会“びっきい”」による東北地方の民俗芸能と、地域の定住外国人による民族舞踊や民族楽器演奏を鑑賞する。本企画を通して、地域に古くからある伝統文化と地域の国際化・多文化共生について認識を深める。

8月20日（火曜日）

口頭発表 第6分科会～第10分科会（9:30～11:30/12:00）

自由研究発表は、発表 20 分、質疑応答 10 分の 30 分です。30 分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

◆第6分科会（231 教室）

司会：岩本 渉・及川 幸彦

- (1) ESD を大会理念とする 「英語パフォーマンス甲子園」について
今井 晴菜（(公社) ソーシャル・サイエンス・ラボ）

- (2) 日本のユネスコスクールの課題と今後のESD発展への提言
松井 晋作（桐蔭横浜大学）

- (3) 地方の教育行政が主導するESD/ユネスコスクールの推進の意義と特色
市瀬 智紀（宮城教育大学）

- (4) SDGs と Society 5.0 の時代のESD と新たなシチズンシップ
—ESD としてのSDGs—
長岡 素彦（一般社団法人 地域連携プラットフォーム）

◆第7分科会（232 教室⇒236 に移動）

司会：重 政子・鈴木 克徳

- (1) 学校におけるESD を支援するコーディネーターの役割
村上 千里（立教大学・院生）

- (2) 教職課程科目でのフィールドワークとESD
松田 剛史（藤女子大学）

- (3) フェアトレードタウン（逗子市）で考えるSDGs
—東海大学教養学部 SOHUM 「アースミュージアム」プロジェクト実践より
岩本 泰（東海大学 教養学部）

◆第8分科会（221 教室）

司会：中澤 静男・内藤 恵子

（1）国内ユースによるESD活動のセグメンテーション分析

飯田 貴也（NPO 法人新宿環境活動ネット）

（2）定常経済の観点から見た持続可能な発展

—大学での教育実践と受講者の反応—

金 基成（山梨大学）

（3）SDGs に取り組むユース世代実践者のESD観に関する調査

河野 晋也（奈良教育大学附属小学校）・篠田 真穂（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）

加藤 超大（公益社団法人日本環境教育フォーラム）

（4）高等教育機関におけるESDの評価

—成果測定・実践改善に向けた評価デザイン—

小松 太郎（上智大学）

◆第9分科会（223 教室⇒229 に移動）

司会：見上 一幸・棚橋 乾

（1）杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai におけるESD に向けた 環境教育・学習の取組みについて

小金澤 孝昭（宮城教育大学）・加藤 博之（仙台市環境局環境共生課）

（2）インドネシア・アディウィヤタプログラムにおける環境ESDの特徴と課題

児玉 弥生（北九州市立大学）

（3）「1年間の学びレポート」にみるESDの授業実践の成果と課題

森田 育志（神戸大学附属中等教育学校）

（4）子どもの心への放射能の影響と自然体験

—風景構成法による絵の変化から—

邊見 妙子（特定非営利活動法人青空保育たけの子・代表理事）

◆第10分科会（226教室）

司会：手島 利夫・吉田 剛

- (1) SDGs でみる小学校社会科の地域学習副読本
河本 大地（奈良教育大学）
- (2) 北海道の公立小・中学校におけるアイヌに関する学習の現状
—社会科副読本の調査から
島津 礼子 広島大学)
- (3) 「豊かさ」を考える授業実践
—中学校社会科の学習のまとめとして—
渡部 裕司（綾瀬市立綾北中学校）
- (4) 持続可能社会に向けた教育の実践(高等学校課程地歴公民科)
—SDGs が目指す持続可能性 Beyond GDP「人間活動と地球環境」を考える授業—
須田 玲子（早稲田大学・院生）
- (5) 震災遺構荒浜小を活用した防災学習の実践支援
—教員向け手引きの制作を通じて—
大林 要介（宮城教育大学・院生）・高見 秀太郎（宮城教育大学・院生）
小田 隆史（宮城教育大学）・梨本 雄太郎（宮城教育大学）

8月20日（火曜日）

ポスター発表（12:00～13:00）

ポスター発表は2日間にわたって掲示され、20日の12時00分～13時00分がコアタイムとして設定されています。

- (1) 高校生のボランティア活動におけるESDの可能性
—東日本大震災被災地での活動を通じて—
野本 晃佑*・平塚 美和（成蹊高校生徒会震災復興パート・高校生）
楊 彬（成蹊学園サスティナビリティ教育研究センター・成蹊中学高等学校教諭）
- (2) ツーリズム関連施設におけるキュレーションの取組
西井 麻美（ノートルダム清心女子大学）
- (3) 地域の学びから考えるつながり
—海と生きる探究活動の実践を通して—
浅野 亮（気仙沼市立鹿折小学校）・千田 康太*（気仙沼市立鹿折小学校）

8月20日（火曜日）

ワークショップ（13:00～）

ワークショップa（231教室）

ESD推進指導者講座—主体的・対話的なESD研修会の創り方—

手島 利夫（日本ESD学会副会長）

この講座では主体的・対話的なESD研修会の創り方を自らも体験的に学び、

- ①ESD研修会では、「ESDとは・・・」などと説明するのではなく、参加者の問題意識や使命感に「火をつけること」が重要であることを踏まえ、そのための具体的な手立てを身に付けること
- ②激変する社会における教育という問題意識をもって学習指導要領を捉え、
 - ・主体的・対話的で深い学びを創る重要性やそのための問題意識のたせ方
 - ・カリキュラムマネジメントって、具体的に何をどうすればいいのか
 - ・ファシリテーターとして進化する教師の役割や指導観・評価観
- ③SDGsの推進とESDの関係、等に関して、活動を通じた理解や納得をしていただき、皆様が自信をもって研修会を運営できるようになるためのワークショップ型の研修会を開催します。

ワークショップb（232⇒236に移動）

福島から世界へ—英語とビデオレターを活用した異文化交流—

坂本 旬*（法政大学）・坂本 ひとみ（東洋学園大学）

鹿又 悟（須賀川市立白方小学校）

2015年4月25日、ネパールで大震災が起きました。それをきっかけに同じ震災を経験したユネスコ・スクールである福島県須賀川市立白方小学校とネパールの小学校との英語を用いたビデオレターによる交流が始まりました。福島から世界へと白方小学校のESDは大きく広がりました。また、いわき市立四倉小学校はインドネシアの小学校と交流をしています。本ワークショップでは、交流実践の紹介とビデオレター交流を体験します。

ワークショップc (221 教室)

教材体験ワークショップ「“地球にやさしい” ってなんだろう？」

— ESD における開発教育教材の応用と課題 —

湯本 浩之 (宇都宮大学 留学生・国際交流センター)

ESD の実践、とくに学校教育での実践においては、「児童・生徒の主体的・協働的な学び」が重要であり、その学び方や教え方については、「単に知識の伝達にとどまらず体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチとすることが大切で」とあるとされています。しかし、その「参加型アプローチ」による ESD の実践がどのようなものであるのかについては、各現場で試行錯誤が続いているのが現状ではないでしょうか。

本ワークショップでは、その参加型アプローチのひとつの事例として、NPO 法人開発教育協会が制作した参加型学習教材のひとつを紹介し、ESD における開発教育教材の応用と課題について検討します。

紹介する教材は、身近な食品や日用品の原料となっている“地球にやさしい1000”（※ネタバレとなるので伏せ字）を題材とし、フォトランゲージやロールプレイなどのアクティビティによって構成されています。それらを通じて、その大量生産や大量消費の現状をはじめ、熱帯雨林や希少動物、児童労働や少数民族といった環境問題や人権問題などとの関連を確認しつつ、責任ある生産と消費、そして持続可能な開発のあり方について考える内容となっています。

ワークショップd (223 教室⇒229 に移動)

ESD に基づいた SDGs を—みんなの ESD 実践によって—

長岡素彦* (一般社団法人 地域連携プラットフォーム) ・松田剛史 (藤女子大学)

SDGs の広まりとともに SDGs の教育の機会が増えているが、学校によっては SDGs のターゲットの穴うめ問題をテストに出すことでよしとするようなこともおきている。

SDGs の教育が ESD とは関係なく行われている状況などを共有し、ワークショップで参加者の ESD 実践を聞き、ESD に基づいた SDGs の教育を共に検討したい。

ワークショップe (224教室)

海外のESD実践に学ぶ (中国)

市瀬 智紀 (宮城教育大学)

張婧 (中国持続可能な開発のための教育全国委員会国際連携部主任 北京教育科学院)

王咸娟 (中国持続可能な開発のための教育全国委員会広報部主任 北京教育科学院)

ESD は国際教育として全世界で展開されているものであり、世界各国との連携の中で、自らの取組みを客観視しその向かうべき方向性を確認するプロセスが必要である。第2回大会では、ESDの国際的な取組を知る場として、隣国中国を選び、中国で積極的にESDを推進するCNWCESD(中国持続可能な開発のための教育全国委員会)から2名の専門家を招聘する。中国では、ESDを推進するためのリジッドな学校システムを構築して、北京市、上海市、内モンゴル、広東省、香港など各地で、学校単位、または地域をあげてホールエリアで積極的な取組が行われている。本ワークショップでは、2名から中国におけるESDの成果と現状についての報告を受けたのち、参加者と質疑応答を行い、学校実践をシェアするとともに、世界で共通して実践されるESDの理念の追求について議論を深める。

8月20日（火曜日）

フィールドトリップ（13:00～17:00）

コースa：仙台の震災遺構に学ぶ

1. 募集人員 15名（荒井駅まで地下鉄。荒井駅から現地見学はマイクロバスを利用）
2. 集合 12:50 大学正門前集合
3. スケジュール
13:00 大学出発（荒井駅までは地下鉄で移動）
13:30 仙台地下鉄東西線荒井駅着：せんだい3・11メモリアル交流館見学
14:00 荒井駅出発
14:10 震災遺構仙台市立荒浜小学校着
15:30 荒浜小発
15:40 冒険遊び場着
16:20 冒険遊び場発
16:40 仙台市営地下鉄荒井駅にて解散

4. 見どころ

仙台3・11メモリアル交流館：仙台平野海岸地域の被災状況がわかる展示

震災遺構仙台市立荒浜小学校：震災遺構の展示。

ここでは当時の荒浜小学校の川村孝男校長先生にお話を伺います。

冒険遊び場：スタッフから当時の被災状況と緑の再生の取り組みについて伺います。

コースb：「大崎耕土」世界農業遺産とESD

1. 募集人員 20名（大学から現地、現地から古川駅まではマイクロバスを使用）
2. 集合 12:50 大学正門前集合
3. スケジュール
13:00 大学出発（昼食はバス車内でお弁当・お弁当代は参加費に含まれています）
14:00 大崎耕土フィールドミュージアムコース散策
15:30 古民家で世界農業遺産の説明（お茶の用意あり）
16:20 古川駅へ出発
16:50 新幹線古川駅で解散（17:09新幹線上り発）

4. 見どころ

大崎耕土フィールドミュージアム：世界農業遺産の水利システムやいぐね景観を観察する。

（内川・西大崎のいぐね）

古民家 休憩しながら世界農業遺産の活用法について、大崎市担当者から説明を受ける。

大会参加費・懇親会費・昼食・宿泊施設等

15. 参加費の振込みについて

大会参加、情報交換会参加には参加費がかかります。所定の口座へお振込み願います。当日の受付は混雑が予想されますので、事前にお振込みいただきますよう、お願い申し上げます。

期日の2019年7月31日(水)を過ぎてからお振込みをされた方は、必ず「振込受領書」等の証明書類を受付にてご提示ください。振込みが確認できない場合は、当日大会参加費をいただくこともありますのでご了承ください。一度お振込み頂きました金額は、返金いたしかねますのでご了承ください。

(1)大会参加

- ・参加費：事前振込： 学生会員 500円 正会員 1,000円 非会員 2,000円
当日： 学生会員 1,000円 正会員 1,500円 非会員 2,500円

※高校生以下は無料になります。

(2)情報交換会

- ・参加費：事前振込： 学生会員 2,000円 正会員 4,500円 非会員 4,500円
当日： 学生会員 2,500円 正会員 5,000円 非会員 5,000円

参加費等納入方法

- ・参加費等の振込は、銀行振込となります。
- ・銀行振込口座は、既設口座を活用しています。
- ・振込名義は、大会委員会で確認できるよう、参加される方の名義でお願いします。
- ・念のため振込の控えを保存しておいてください。
- ・振込金額は、大会参加費・情報交換会参加費の合計額の支払でお願いします。

(銀行名) みずほ銀行
 (支店名) 仙台支店(723)
 (種別) 普通
 (口座番号) 2211458
 (口座名義) 市瀬 智紀(イチノセ トモノリ)

① 情報交換会に参加されない場合の合計額例：(振込手数料は各自でお願いします)

| | 学生・院生会員 | 一般会員 | 非会員 |
|---------|---------|------|------|
| 大会参加費合計 | 500 | 1000 | 2000 |

② 情報交換会に参加される場合の合計額例：(振込手数料は各自でお願いします)

| | 学生・院生会員 | 一般会員 | 非会員 |
|----------|---------|------|------|
| 大会参加費 | 500 | 1000 | 2000 |
| 情報交換会参加費 | 2000 | 4500 | 4500 |
| 合計 | 2500 | 5500 | 6500 |

会場案内

宮城教育大学 (<http://www.miyakyo-u.ac.jp/>)

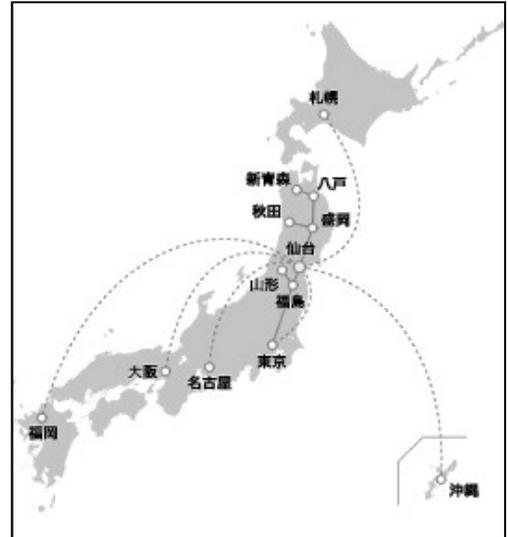
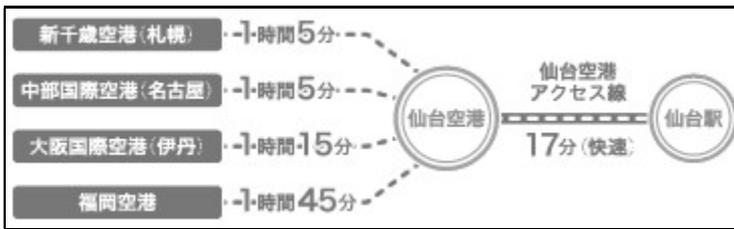
交通アクセスの詳細については、本学ホームページ「宮城教育大学交通アクセス」をご覧ください。

仙台までの交通機関

■東北新幹線



■空路（仙台空港）



■宿泊施設

宿泊施設の予約は各自でお願いいたします。仙台駅周辺および地下鉄東西線沿線のホテルが便利です。宿泊施設の予約は、お早めをお願いいたします。

■宮城教育大学（青葉山地区）

「仙台」駅から地下鉄東西線「八木山動物公園」行き乗車、「青葉山」駅下車（乗車時間9分、料金250円）

「青葉山」駅「北1出口」から大学正門まで徒歩約15分

※「青葉山」駅の「北1出口」から外に出て、歩道を右方向へ進みます。そのまま歩道を歩いて行くと宮城教育大学に到着します（約650m）。



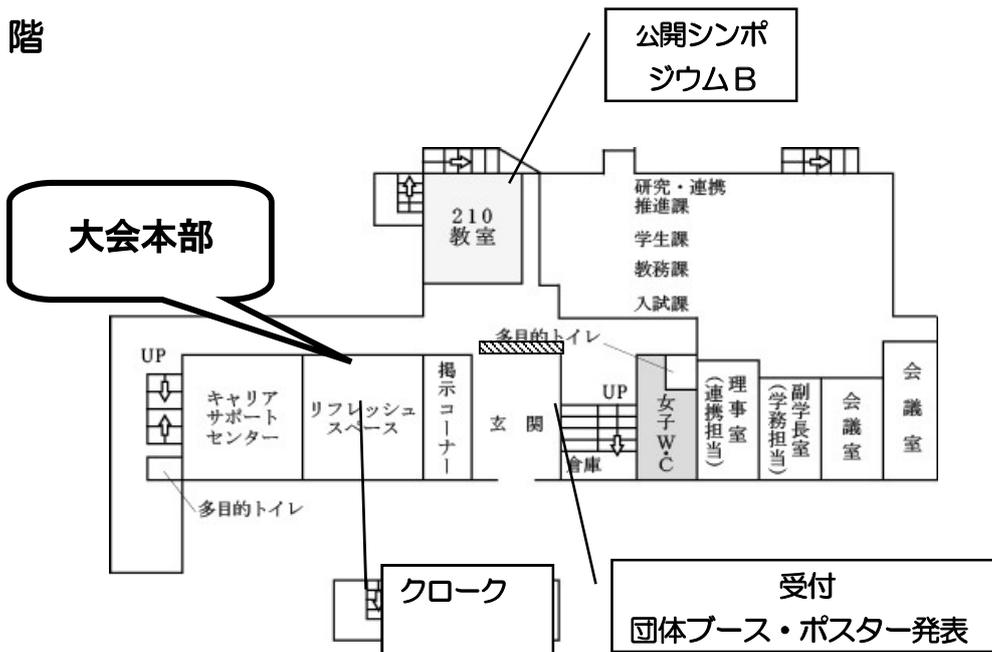
地図データ@Google2019

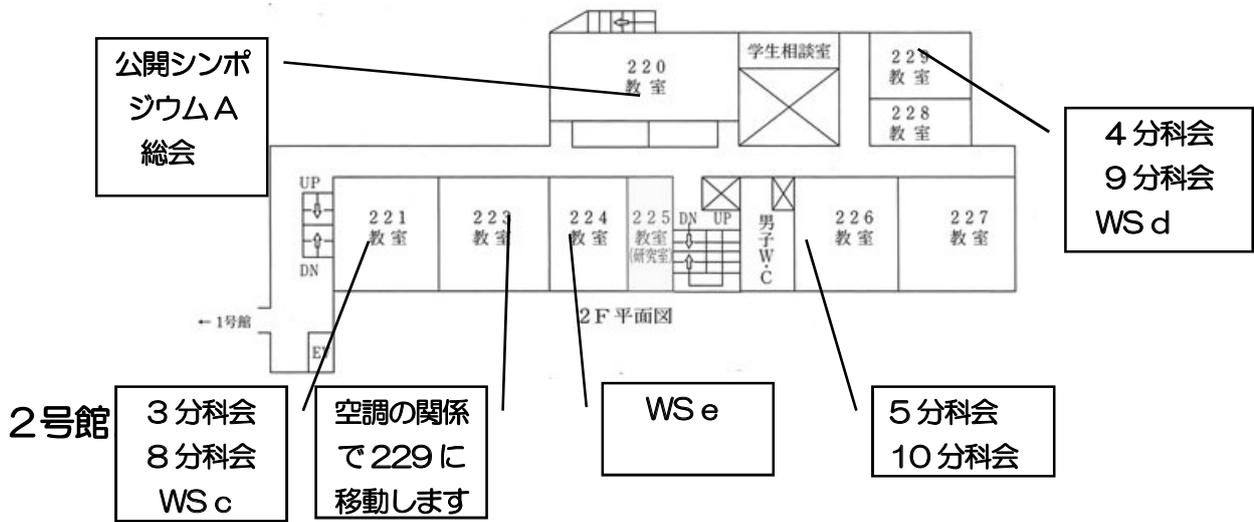
会場案内図

8月19日(月)・20日(火) 宮城教育大学



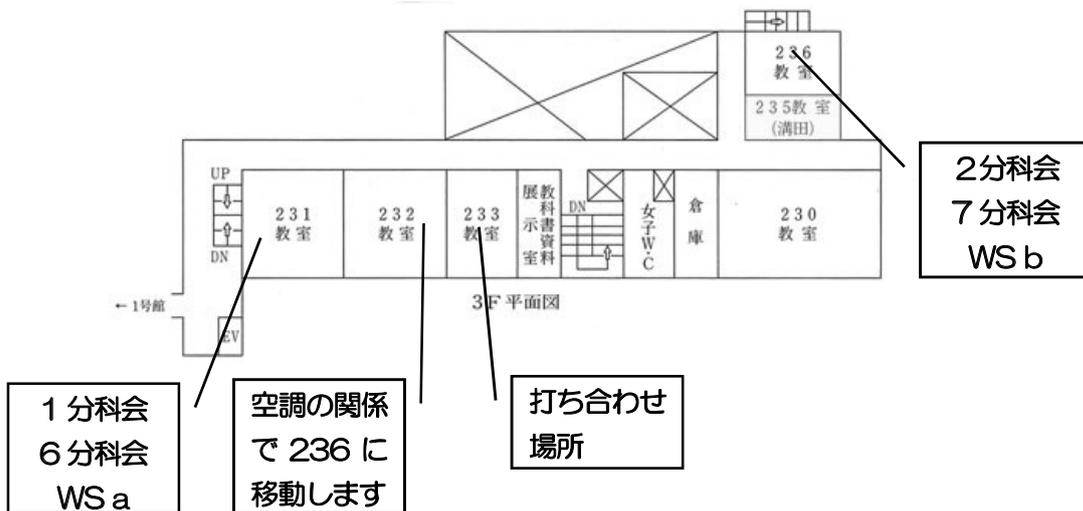
2号館1階





暑さ対策のため教室を変更します。悪しからずご了承ください。

2号館3階



*暑さ対策のため教室を変更します。悪しからずご了承ください